

「電車が揺れた弾みにね、こう肩がぶつかつちやつたりして……」

新入生のC子さんは目を輝かせて  
“出会いの瞬間”とやらを語り始める。もちろん空想なだけけど。

夢見る乙女——C子さんの空想は  
通学の車内で、はんなりと羽根を広げるらしい。まあ、片道2時間もありませんからね。

「あ、ごめんなさいって謝る瞬間に目が合っちゃったりしてね、そこから恋が始まるのっ」

いまだき昼下  
ラだってそんな  
ベタな台本は作  
らないわよ、とバカにしていたのだけれど、

「それが、夢じゃなかったのよ」  
トロンとした目で語るから、つい身を乗り出して聞いちゃった。

——ガタン、と電車が大きく揺れてつり草のカタマリがぎゅうつと片寄った。のほほんと席に座って空想の中にあつたC子さんのところにもどどつと。

「す、すみませんっ」。落ち着いた男性の声。C子さんの胸は一気に高鳴った。

「大丈夫ですか」。につこり微笑んで顔を上げたとき、再び電車は大きくカーブして傾いだ。

肩が触れたのではなかった。男性は背中を押された弾みでC子さんの膝の上にちよこんと座ってしまったのだから。立つに立てない満員の車内。さすがにこれにはC子さんも顔赤らめたが、「出会いだわ」と気を取り直して、顔を上げた。そのときはじめて目と目が合ったのだそうである。

### 夢見る乙女の…… マグネチュードフ

杖を手にした、  
小柄な男性と。  
「すみません」

としきりに恐縮しつつも「次の駅で、膝からも下車しますから」だなんて、この人冗談さえおっしゃった。年の頃なら……。

「白髪がステキなおジイサマ、だつたわよ。軽くて、膝もさして痛むことなく」と、C子さんはいまも強がり言ってるのだけれど。

5・26東北が揺れた、その日の出来事。宮城や岩手はM7で大変だったというのに、もうッこの「多摩の夢子さん」ときたら……。 (雪)



サークルには縁ないが、ぶらりとCスクエア1階の喫茶店へ。

店内は広く、新築の香りがまだ残っている。帰りがけに小腹を満たそうとする学生やサークルの団体があるところどころに座っていた。

メニューにはいくつかのエスニックフードがある。フォーというベトナム風汁ビーフン、キーヌカレーとナンのセット、チキンココナッツカレー……料金も300円から400円とお手ごろ。鶏肉入りのフォーを注文することにした。

レタス、オニ  
オンスライス、

### 「宮城の実家は……」 地震とフォーの塩味と

だれにかけても  
つながらない。  
電話が殺到し、

鶏肉、茹でたトマトが入っている。スープを一口。鶏がらベースの少し濃い目の塩味。麺は弾力があつて歯ごたえがある。でも、茹でたトマトはおいしくないネ。

などと友人と談笑していると、突然、揺れた。5月26日——時に午後6時25分。窓側に座っていたが、大きな細長い窓がガタガタ揺れる。一瞬、

店内は静まり返る。1分近く揺れは続いた。  
一緒にいたN子（総合政策・3年）は電話をか

け始めた。母親に連絡して地震の状況を聞いたのだという。まだ揺れが続く中で、肝が据わっている。もう一人は「窓の近くは危ないから逃げる準備しないと」と、もう腰を浮かせていたというのに。

「震源は岩手と宮城の沖合いだつて。震度6弱」

N子の言葉にドキリとした。記者の実家は宮城県である。78年の宮城県沖地震のことが頭をよぎった。すぐさま家族4人に電話をかける。が、

通信規制がかかっているらしかった。しばらくすると店内はまたにぎわいを見せ始めた。Cスクエアの外の灯がともるころには、地震の話題はすつとひいていった。

夜の9時前、ようやく家族と連絡がとれた。「びっくりしたよ。すごい揺れたんだから。でも大丈夫。壁にかけて絵が倒れたくらい」

弟のさばさばとした声が返ってきた。よかった、と安心したとたんにフォーの塩味が舌にかすかに残っているのを感じた。 (哲)



5月9日金曜日、総合政策学部では「EBS現代文化I」の大イベントが挙行された。

「EBS現代文化I」の一

行っていたようだ。今年設立10周年記念イベントを前に、総政のDNAが生き返ったような。

「新しい二オイ、ぴかぴかのフロア……。キレイすぎて落ちて着かないな。でもまあ、ここがわがサークルの新しい歴史のはじまりだ！なあ主務クンッ」

「そうですね部長、じゃあ早く今後の方針会議を始めてください」

「……淡白な奴め」

4月にCスクエアが竣工したことに伴い、5月の連休前までにいくつかのサークルが旧サークル棟からCスクエアに引っ越した。このサークルも今日は新・

部室での初の方針会議。自然と

「……冷静な奴め」

主務クンの

「それで予算が……ハ、ハクシヨーン！」

「おう、会計クン大丈夫か？ 大変だな花粉症も」

「すいません。あれ？部長も花粉症でしたか？目が真っ赤ですよ」

「そういやさつきから目がカユかったが、ついに花粉症になっちゃったかな」

「でも……手のひらも真っ赤になつてませんか？」

「ほんとか副部長!? あ、言われ

てみれば、さつきから頭も痛くて。ろうひたならろ」

「部長!? ろれつが回ってませんよっ」

「と言うより、ラリってますっ」

「ち、ちくしょう！ ハッ。まさかこの新築のCスクエア……。噂のシックハウス症候群か!？」

「ちがいます先輩。先輩が新しい建材の二オイに敏感なだけです。早く窓を開けて換気しましょう」

「……冷静な奴め」

主務クンの

ツツコミ通り、部長の症状はシックハウス症候群などではなく、単に部長が新しい二オイに過敏だっただけである。

「あ、換気したら体がラクになった。ホッ」

「よかったですね部長。じゃあ早く方針会議を続けましょう」

「（小声で）もう少しいたわってくれて……」

かくしてこのサークルでは、完備の冷暖房は親の仇ように無視され、つねに窓が全開だそうである。(猫)

**総政ならではの……**

「club 現代文化I」

でも刺激的だった」といって好評で、「またやつてほしい」という声も多かったようだ。

ところでこの「現代文化I」という一瞬授業かと間違えてしまいそうなネーミング。ココロは？ と聞くと、小野さんは「とにかく総政っぽい名前にしたかったんです。現代哲学という人気授業もありますし。次にやるときは、現代文化論にしてほしいですね」

ちなみに「現代哲学I」講義の中沢新一教授の姿は見たらなかったけれど。

「EBS現代文化I」の一

大イベントが挙行された。

学部棟の大教室をアレンジして、パフォーマーの出演多数、軽いアルコールのサービスタ付き、と本物のクラブさながらの盛り上がりみせた。今春入学した新1年生を歓迎するためのSA（＝Student Adviser）活動の一つである。

代表者の政策科学科2年小野裕之さんは、「SAとして1年生に学部の可能性を提示しようとする中で、机上の空論にとどまらず実際に自分たちが行動を起こすことで、総政の可能性を示そうと思ったことがきっかけだった」と話す。また「ふだん大学ではアカデミックな活動をしている人にスポーツライต์が当たりがちだが、だからこそ音楽やダンスなど趣味の分野でそのパワーを発揮している人にアウトプットの場を提供したかった」とも。

実はこのクラブ企画、およそ10年前の総政1期生も同様のイベントを

「現代文化I」講義の中沢新一教授の姿は見たらなかったけれど。

わたし、理工の2年生。多摩と

合同のサークルに所属している。で、多摩の人々との交流を通して、多摩と後楽園（理工）を比べてみるとなかなか面白いのである。

先輩Aさんは、経済学部の4年生。公務員を目指し、今は学校と予備校というダブルスクールの生活をしている。

Bさんは、法学部の3年生。いまは大学の授業一本だが、そろそろ資格が欲しいと思っっているようで、司法書士の資格をとるための予備校へ通おうかと

思案中である。

「学校の勉強？ あまり意味ないね。法律のことばかりだし」

友人のC君は、経済学部の2年生。前期は時間配分がうまくいって学校は週4らしい。

「空いてる時間は？」

「主にサークルとバイトだね。この前は15万くらい稼いだよ」

片や、理工学部に戻ると、3年の先輩Dさんは、学部から給付金をもらうほどの勉強派。すでに大学院のことをかなり考えているようである。

### 「中大な人々」 多摩Vs後楽園

同級の友人Eさんは、一人暮らしもだいぶ慣れて来たみたい。サークルもバイトもしていないため、今は学校と家の間を行き来する日々。「でも、授業とか詰まってるし、レポートが大変だし……。今一度実家に帰るんだ。早く帰りたいな……」

〈多摩はオープン、理工はタイト〉  
という趣もあるが、理工にだって友人F子は、学校も、サークルも、バイトも、と三足のわらじを履

いて超多忙。「遊ぶ暇もないくらい」とぼやいて

いるが、でも、遠くから見ていると、とても楽しそうでイキイキしている。うらやましいくらいに。

「終わらなき日常をまったりと生きよ」とおっしゃる社会学者（宮台真司氏）もいたけれど、人生いろいろ、学生もさまざま。

「わたしも、がんばらなきゃ」と思うこの頃である。

（走）



「サン敵し、スイ飲みてー」

「あーオニきつい」

猛暑のなか、きょうもY部は猛練習中。息も絶え絶えに発する雄叫びが、しかしどうにもわからない。ほんとに、ナニ言ってるんだか。

仲間うちことば、でしようね。学者の専門語から、業界ことは、若者ことばまで、まとめて「ジャーゴン」ともいうらしいけれど、これはもつと小さな村の「Y部語」とも言っときましようか。

ことのほかこの種の「隠語」  
感覚に長けて、  
部外者にわかりにくい点でも群をぬいている。

### 「バなく」 難解な言語事情

寮の一室にて。

「明日授業どうする？」「スルー」  
かわいい子が通りすぎれば皆で、「バなくかわいい！」

と大騒ぎし、明日は彼女の誕生日でね、と自慢げにS君は友人に一言。「絶対プレゼント買わなきゃ」  
ワカリます？

マネージャーの解説によると、サンとスイはそれぞれ山と水の音読み。

オニは超の意。スルーは through、授業をサボること、これはフツーだが、「バない」は一体？

「半端じゃない」の略だそうである。「絶対」は絶対の絶で断定を表すのだとか。

きつい練習のあとは、寮の立ち風呂で裸のつきあい。1年生から4年生まで1室4人の相部屋で寝食を共にする。寝言で女の子の名前を叫んでサラシモノにされた部員もいれば、真夜中、先輩が先輩をたたき起こして一発芸をやらせたり、だそうなの。

「プライベート」

トゾーンがベッドしかないとこが傷だけ」とS君は言うのである。

「相談や物の貸し借りはすぐに行けるし、部屋のメンバが誕生日の時は部屋会を開いて祝うんですよ。すごい楽しいですよ」

「いつも一緒にいる」うちに笑いのツボさえ共有し、共通語が生まれ、それでまた友情と連帯を確認し合う、というような。

特異ともいえる「Y部語」は彼らの濃厚な時間と関係性の賜物であった。

（露）

「全員、起立!!」「押忍!」

かけ声をかけたO君は殺気だつていた。4月4日、新人生勧誘活動という名の戦争の幕開けである。

「いいかお前ら……。作戦はこの一週間で勝負である!」「押忍!」ちなみにこのサークル、応援団ではなく某インカレサークル(インドにカレーを食べに行こうの会ではないほうの)である……。

「いいか! 近年このサークルにはなぜか女の子がひとりもない!」

そこで今年

### 野郎ばかりの…… 某部、決死の新勧誘ブルース

「よ!」「そ、そうか、ナンバ気分だったからダメージ大なのか……」

ろ!野郎にビラは配るな! クリオン・キャンパスとやらで学部棟にビラが貼れなかつた分、じゃんじゃん配れ! では行動開始!」「押忍!」

つまり場に行つても野郎ばかり、の危機的状况を回避したいO君以下は新歓に勝負をかけているのである。そしてペデ下は……。

「くっ、落研め、おい、そのセミロング」などと気安く声をかけおつてからに。はっ、居合道め白袴の女性を配置するとは卑怯なり」ウチも負けていられんばかりに

O君も猛然とビラを配り始めた。

「すいません、1年生の方ですか?」

「いえ、4年生です……。撃沈。すいません、スポーツサークルなんていかががつつか?」

「興味ないんで……。撃沈。なぜだ? なぜみんなこんなにもクールなのだ!」

「O先輩! 自分好みの女の子にばっかり声かけないでくださいよ!」

「後輩からツッコミを受けつつも勝負の1週間は過ぎていった。」「さあ、1年生のみなさんは来たか?」

「あ、えーとA君が空手経験者で、B君が弓道経験者、C君は柔道経験者だそうです」

「……」

かくて某インカレサークルは、今年も野郎ばかり、しかもそろいもそろって猛者ぞろいだそうな……。めでたしめでたし☆ (鬼)



イマドキの学生は空

き時間はバイトや旅行、また資格取得にと忙しく、サークル活動なんてメン

ド、という向きも多いけれど……。これはサークルに学生時代を捧げた経済学部4年Nさんのオイシイおはなしである。

Nさんが所属していたのは陶芸研究会。皿を焼いたり、好きな人と2人だけのマグカップを作ったり、いまトレンディーな焼物サークルだ。ではあるが、9

### 焼物からホタモチ サークルやっててよかった話

「キミ、どんな器が好みだね?」

号館の先、第二体育館をも越えてズンズン歩いて行かねばならない。ようやく煙突の付いた怪しげな?小屋が現れる。そこが彼らの青春工房「作陶場」である。某日、訪ねてみれば、大きな土のカタマリを練る人、染料を調合する人、ろくろを回す人……。ロックやジャズをBGMに、

ですからね。このフシギな感じがイイというか、チグハグというか。

「バスケやろーぜ!」

2、3人が外に出ていった。軽いバスケットボールに興じる。陶研では球技も盛んなのである。スポーツ

大会にだつて出場しているのである。息抜きのコーヒー、夏には工房でカキ氷を食べたり。もちろん、手にするカップは部員の作品。器の良さも味わいながら、というわけだ。

そんな陶芸研究会にNさんはドップリ浸かっていた。おらかな気分です、就職活動もノンビリであった。「大丈夫かよ、オイ」と周りが気をもんだくらいだが、あつさりど、大

手建設会社の内定をもらうことができた。そのわけは……。

「あその土はいいよなア」面接の場が、陶芸の話で1時間は盛り上がったのだそう。おエライさんの面接官が骨董マニアだったのである。

「やってよかった。やってみるもんなんだよ、何事も」

Nさんは自慢のろくろを回しながら、サークルの後輩に、ココなら受かる!と面接の要諦アレコレ伝授したという話である。「そうウマくいきますか、2度も3度も」という

声もあるけれど。(Q)